合同教会の人びと4

小野寺那仁

昼からは黒雲がせり出してきて、天候は不順になった。ときおりみぞれまじりの雪が痛いほど顔に当たるようになった。初心者と思っていたあきなはかなり上達してきたらしかった。ひとりで滑りたがるのでそのままにさせる。あおいは疲れてきたのか、もともとの性質なのか滑るたびに無口になっていった。それから表情が硬くこわばってきて仏頂面のままでいることが多くなった。いや機嫌が悪くなってきたのは何度か、木島とめぐみがモーグルコースを目にも止まらぬスピードで滑走するのがリフト待ちの丘から眺めることができて心から楽しむ彼らにさまざまな意味で嫉妬していたのかもしれない。めぐみは体格もよくてさばさばしていてそばかすがあおいよりも多かったけどそれさえも愛嬌に変えていたのだった。木島が気に入っているのもうなずける。ただ再婚するのかというとそれはどうかはわからなかったが。

静間は疲れてきたので少し休むことにした。ゲレンデから離れて丸太を組んだ真新しいロッジに立ち寄る。あおいはあきなとリフトに乗ることになった。あおいと話すのが億劫になってきた。あおいの話はネガティブであったのと静間が既に独身が長すぎて女性に対してそれほどにのめり込むようなこともなくなったのと人間関係の込み入ったことにつきあえなくなったことからだった。職業柄なんだろうか、他者からの要求に対して過敏になってしまう。この場合は合同教会の高橋侑なのだが、どうにも彼のことが気になって仕方なくなってきたからいきおいあおいの話には少しばかりうんざりし反発さえ覚えるのだった。欲望のベクトルで言うと合同教会に興味を持つ静間と教会から離脱したいあおいとでは方向が逆なのであった。

ロッカールームでゴーグルを外した時にあおいはいきなり言う。

「合同教会のパーティーに行った方がよかったんじゃないですか？」

「どうして？」静間は答えたが、それに対しての答えはなかった。あおいは愛想笑いも浮かべなかった。静間には多くのことが謎めいていた。そうなのだ。俺は無理やりに連れてこられたのだった。あおいにとっては無理やりであっても教会よりはスキーのほうがいくらかはましだったのだろう。

そうして静間たちは別れた。あきなの背中は溌剌としていた。

静間の中にはしこりが残った。あおいの言葉が気になった。帰宅途中の渋滞の車内で漏れるような声で静間は教会の人たちに似合っている、みたいなことをなにげない会話の中で口にした。それには木島も同意してうなずくのだった。そればかりか高橋侑のことをさらに持ち出してブログぐらいは読んであげたらと薦めてくるのだった。読むつもりはあったのだがその場では即答を避けた。

だが自分の部屋に戻ると暖房も入れずに真っ先にパソコンで侑のブログを検索していた。

それは合同教会の公式ブログと同じアドレスであった。つまり彼は広報担当なのである。コメント欄から先に読むとひどい中傷と批判の渦であり、よくもまあこれだけ悪口を言われ続けているのにブログを続けていられるものだと妙なところに感心する。合同教会の長老はゼーベルク師というらしい。この人は侑の紹介で一章を割かれて詳しく記述されているのだが、当のゼーベルク師から事実無根であるとコメント欄では否定されていて、そもそも合同教会のブログは世に存在せず、使徒を名乗る高橋侑は異端も異端、合同教会の問題児であると揶揄されている始末だった。それにはさすがに侑も反論していてコメント欄で「このなりすましめ、長老はパソコンを使えないし日本語もできない」と言っていた。そこから延々と果てることのない言い争いが続くわけだが、静間はこちらは読まなくてもいいだろうと思い途中で切り上げることにした。では、肝心の本文にはどういう記載があったのか、覗いていくことにしよう。

ようこそ合同教会へ

合同教会とはさまざまな宗派を超えて真の信仰の有り方を見つめ直す教会です。かつては日本基督教団に属していたこともありましたが、現在は解消されています。また、昨年まではカナダ合同教会の分派と位置付けられていましたが、ネット社会を迎えてネット上での見解の相違が明らかになり、カナダ側より留学生の交換や教父の派遣などの交流拒否事件が起きたために二〇一四年現在では関係性は名称の類似のみにとどまっています。日本では、岬町沖津島三〇五番地、スーパーシマツ敷地内の一か所のみの活動となっています。

合同教会とはいえ既存の教会とは一線を画しているために個々人はほとんどいかなるキリスト教の分派にも属していないと言った方がいいでしょう。私たちは正当性などは求めてはいません。合同教会の特色はただひとつしかありません。**自由**です。

日曜礼拝や聖書精読やゼーベルク師の説教などは教会ですからむろんあるのですがそこにはいかなる強制力もありません。信者でなくても自由に出入りできます。そして、これは画期的なことであると私たちはひそかに考えているのですが、あらゆる行事参加費用は**無料**です。信者であることを辞めてしまう大きな要因のひとつにはキリスト教団には金がかかるいうことがあるのですが、寄付は完全に自由です。

それから毎年数組は行われる結婚式は有料になります。（わずか一万円）

なぜそんなことが可能であるかというと（以下数行削除されている）

とはいうものの合同教会は改心した（またも削除）重度の患者、土地を失った農民、漁場を失った漁師（多くはそうであるが）ばかりではなく、近年はネットの普及もあって各地の哲学者や神学者、聖書にまつわる様々な研究者、大学生、果ては左右の政治団体にも関心を持たれています。彼らはネット神学生といわれていてほとんど教会に顔を出すこと

はありませんが、別サイトの合同教会神学生サイトには夜毎現われ熱い議論を交わしています。ただ私（高橋侑）としては彼らの活動は実存を伴わない亡霊的な活動に過ぎないと思っております（数行の削除）

次に沿革およびゼーベルク師の来歴という項目があるのだがそこはごっそりと削除されているらしく空白になっているが、明らかに高橋侑の個人ブログと思われるアドレスが貼り付けてあった。ここまで読んだ感想は思いのほか、普通の教会ではないのか、というものであった。もちろん激しいコメントの応酬や削除がまったく気にならないわけではなかったが。数枚の写真もアップされていてほとんどの人が知らない人ではあったが、ロックコンサートの場面では瑠奈先生や葬儀屋も映っていたしところどころにあおいや侑の写真もあった。それは何かサークルのようなものを思わせるのどかさがあったので静間は行ってみるのも悪くはないと思い始めていた。ただ侑のブログも読んでみたく思ったからアドレスを辿って行ったがリンク切れになっていた。それを読んでほしかったのだろうか？それともこの公式ブログらしきものなのだろうか？　よくはわからなかったが、彼のことだからそのうちにはなんらか連絡があるだろうと思い、静間は疲れた身体を横たえた。

（第四回）